

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	あいわの子ども療育センター		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 16日	～	令和7年 1月 11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 62名	(回答者数)	49名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 16日	～	令和6年 12月 29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 24名	(回答者数)	20名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所周辺に自然が多いことや社会資源もあるのでいろんな活動が体験できる	職員会議やグループ会議の中で活動計画を立てている。事業所内だけが活動スペースとは考えず、色々な活動を体験することを大事にしている。 例：海での屋外活動・地域のお店で買い物体験 公共機関を使って遠足など	体験を通して、楽しめたことなど、次の活動につなげていく。 例：お店屋さんごっこやお泊り会、買い物活動をしてからのクッキングなど
2	ご家族・関係機関とのコミュニケーション、情報共有を大切にしていること	・ご家族とは送迎時の情報共有や連絡帳、気付きシートを活用して、ご家族の思いや悩み相談など一緒に考えていく関わりを大切にしている。 ・関係機関とはこどもの支援について一緒に考えることで共通理解や支援内容が統一していけるように連携を図っている。	・定期的に個別支援会議を行うことでご家族、関係機関と共通理解が図れるようにしていきたい。 ・普段のやりとりだけでは十分にご家族の思いを聞き取れないこともあると思われる為、面談等要望がある時には随時面談を実施していき、ご家族の思いを聞く時間を設けたい。
3	分かりやすい個別支援計画書の記載と説明	・利用時の気づきシートやご家族、並行通園先との情報交換の中で見えてきた課題等を計画に反映させていく。 ・記載の仕方については具体的に何をすることが分かるように抽象的な表現は避ける。 ・個別支援会議の中で取り組む支援内容について、丁寧に説明を行う。	・支援内容については内容がわかりやすいものだったか、ご家族に確認をしていく。またわかりにくいと判断された時には修正を行う。 ・気づきシート以外でも一人一人にあったアセスメントを使用しながら、計画作成につなげていきたい。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・災害訓練を職員は毎回参加することができているが子ども達全員が体験できる内容になっていない。 ・地震に対する訓練が少ない。	・毎日利用をする子どもがいらない為、訓練回数を増やして実施する必要があるが活動やあそびの流れもあるので実施していなかった。 ・避難訓練と地震の訓練では職員の動きが変わる為、職員も訓練を重ねていくことで安全な避難につなげていく。	・災害に関して、以前とすると地震が増えており、こどもの安全を守ることが重要な課題となっている。訓練回数を増やせるように計画していきたい。
2	さまざまなマニュアルはあるものの、ご家族がわかりやすい内容となっていない。また周知の面でも理解ができていない保護者が多く、改善が必要。	・マニュアルは施設内に提示をしているが一枚の用紙にたくさん情報がまとめられており、見にくい内容になっている。 ・マニュアルを周知する回数が少なかったように思う。	・マニュアルに関しては情報をまとめていき、わかりやすい内容に変更していく。 ・ご家族へ配布であったり、お知らせを行いながら、マニュアルについて理解していただけるように努める。
3	職員間で話し合いながら事業を行っているが外部評価等受けたことがないので正しい支援ができていないのか迷うことがある。	外部評価を受ける機会がなかった。	今年度中に外部評価を受けることが決まっているので評価を受けた上で施設運営や業務改善につなげていきたい。